

## 診療科 紹介

### 愛媛大学 松原准教授の外来診療が開始！

平成27年6月より、第2・3火曜日に、愛媛大学産婦人科 松原圭一准教授による外来診療が開始されました。

愛媛労災病院の産婦人科に新しい風が入り、これから一層地域の医療機関、地域住民のみなさまと密接した診療を行っていく所存です。

お困りの症例がありましたら、是非当院産婦人科にご連絡くださいますようお願い申し上げます。

#### 宮内文久院長よりご挨拶



愛媛労災病院の産婦人科では不正出血から分娩まで、産婦人科のさまざまな病気に幅広く対応することが可能です。愛媛労災病院では「丁寧な診察と親切な説明」を心がけています。したがって、「他院で診断がついているんだけど、どうしたらいいのかわかっている」「やっぱり手術しかないのかなあ、もう一度確認したい」など、どんな悩みでもきちんと対応します。受診当日にCTやMRIを撮影することも可能ですので、その画像を見ながら相談することもできます。

また、この6月には骨密度測定器を導入しましたので、高齢女性のメディカルケア領域での対応も可能となってきました。

なお、最近は子宮下垂や子宮脱の患者様が多く受診されています。子宮が下がってくると、歩きにくくなったりあるいは尿が出にくくなったりと日常生活が障害されてきます。「もう歳だから」とか「死ぬまでもうすぐだから、がまんガマン」と言われますが、膣式手術後には「もっと早く手術すればよかった」とおっしゃっていただいています。

24時間対応を心がけていますので、よろしくお願ひいたします。

#### 南條和也産婦人科部長よりご挨拶

当科では一般不妊検査ならびに一般不妊治療から生殖補助医療まで行っており、昨年は新患者数が196名で、不妊治療で98名の患者様が妊娠されました。

最近35才以上特に40才以上の患者様の割合が増加して妊娠率が若干低下しています。一方、生殖補助医療技術の進歩により、生殖補助医療による出生児数はここ数年劇的に増加しています。当科でも遺伝子組み換えFSH製剤の自己注射、PCOのメトホルミン療法、体外受精の自然周期あるいは低刺激採卵、胚盤胞のガラス化凍結融解胚移植法など積極的に取り入れて治療にあたっております。昨年は生殖補助医療で33名妊娠されました。さらに最新の技術、機械を導入して一人でも多くの方が、少しでも早く赤ちゃんを授かるように、お手伝いしていきたいと考えています。



従来どおり、不妊治療を頑張っています。おかげさまで多くの患者様に来ていただいております。ご紹介よろしくお願い申し上げます。

#### ○担当表

受付時間		月	火	水	木	金
午前	8時15分～11時半	宮内 文久	南條 和也 第2・3 愛媛大学	宮内 文久	南條 和也	平野 真理
午後	2時～4時	南條 和也	宮内 文久		南條 和也 (予約・紹介)	南條 和也

地域連携に係るお問い合わせは下記までお願いします。

愛媛労災病院 地域医療連携室

TEL : 0897-33-6199

FAX : 0897-33-6198

